

コアシンポジウム 4

「消化管画像診断」医工連携による次世代画診断の開発

Next-generation diagnostic imaging developed by medical-engineering cooperation

主司会 飯石浩康（市立伊丹病院消化器内科）

副司会 岡 志郎（広島大学病院消化器・代謝内科）

消化管領域における腫瘍や炎症性疾患に対する普遍的な画像診断学は確立されつつあるが、診療現場における臨床応用の際に医師の経験値や技量により診断精度に差が生じることは否めない。一方、医工連携が叫ばれて久しいものの、消化管画像診断領域において臨床応用された技術はまだまだ多くないことも事実である。近年、病変の拾い上げや質的診断、機能診断に対して、人工知能（AI）や新規内視鏡機器（分子イメージング内視鏡や機能イメージング内視鏡など）が開発されつつある。この領域をさらに発展させるために今求められているのが、これらの革新的技術をいかに臨床現場にフィードバックし、診断精度の底上げや診療の効率化が図れるかである。本セッションでは、近未来の臨床応用へ向けて現時点で残された課題も含めて、消化管領域における医工連携による次世代画像診断の開発に関する斬新かつ意欲的な発表を期待する。